

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和8年度第1回）

開催日 令和8年6月17日(水)

場所 百周年中村記念館特別会議室、オンライン

出席者 【対面】麻生委員、梅岬委員、大庭委員、上委員、兒玉委員、嶋田委員、宮武委員（五十音順） 【オンライン】有松委員

列席者 【対面】安永学長、美藤理事、坂本理事、中村理事、小川理事、鈴木理事、竹澤工学研究院長、宮野情報工学研究院長、和田生命体工学研究科長、山路教養教育院長

会議成立 【対面】松田監事 【オンライン】林田監事

会議成立 構成員21名のところ、18名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題 1	(審議事項)	令和7年度決算について	原案どおり承認 ※現時点で会計監査人による期末監査が終了しておらず、文部科学省への提出資料に変更が生じる場合がある。軽微な修正については学長に一任することとし、重要な変更点が生じた場合には経営協議会委員に別途報告を行うものとする。 ※役員会に付議し6月末までに文部科学省に提出する。	○外部資金は全体として伸びており評価できる。令和7年度「補助金等収入（J-PEAKS以外）」にはどのようなものがあるか。また、間接経費について、国等は約30%である一方、民間の比率が低下しているのはなぜか。（学外委員） →J-PEAKS以外の主な補助金等としては、授業料減免に係る国の補助金や、情報工学部アネックス棟整備に係る大学・高専成長分野転換支援基金助成金がある。間接経費については、民間企業とは原則30%で契約しているが、社団法人や海外企業等では間接経費率が抑えられることがあり、これが全体の低下要因となっていると考えている。（経理課） ○寄附金や自己収入が令和7年度に大きく伸びているが、どのような取組によるものか。（学外委員） →寄附金の増加は主に大型の遺贈によるものであり、年度ごとに変動がある。寄附金制度として金融機関と連携し広報等の取組を行っている。（経営戦略室）
議題 2	(審議事項)	国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等について	原案どおり承認	○ガバナンス・コードは基準を満たしており評価できるが、策定して終わりではなく、出来事や状況の変化に応じて適宜見直しを行い、継続的に改善していくことが重要である。（学外委員） →ガバナンス・コードについては、組織改編も含めて継続的に見直しを行い、より実効性のあるガバナンス体制の構築を図っていくと考えている。今後も意見を踏まえながら改善を進めていく。（学内委員）
議題 3	(審議事項)	第4期4年目終了時法人評価に係る達成状況報告書及び業務実績報告書（案）	原案どおり承認 ※役員会に付議し6月末までに大学改革支援・学位授与機構及び文部科学省に提出する。	○宇宙産業分野における産学連携の強化（中期計画4-2）について、令和6・7年度の取組が資料で示されているが、今後の展開や計画はどのように考えているか。（学外委員） →宇宙産業分野は本学の重要な柱の一つであり、現在は小型衛星（約50kg級）を対象とした試験環境を国際規格に基づき提供し、収益基盤の一つとなっている。今後は第5期に向けて、100kg級・150kg級のより大型の衛星にも対応できるよう機能拡張を図るとともに、コンサル的機能を担う拠点（CubeSatサロン）と、実際の製造・試作を行う拠点（RPPL）を両輪として展開し、産学連携および収益基盤の強化を進めていく。（学内委員） ○本地域は歴史ある産業基盤を有しており、その強みや背景を、地域の歴史やストーリーと併せて示すことで、より魅力的に伝えるのではないかと。（学外委員） →本学は、製鉄をはじめとする地域の産業基盤を背景に発展してきており、現在も北九州市の産業政策（宇宙産業やフィジカルAI分野等）と連携しながら取組を進めている。今後の第5期中期計画の策定に向けては、創設時の理念も踏まえつつ、地域との関係性や歴史的背景を意識した形で発信を工夫したい。（学内委員）
議題 4	(審議事項)	株式会社Kyutech ARISEの増資に関する基本方針について	原案どおり承認	
議題 5	(審議事項)	学長選考・監察会議委員の選出	原案どおり承認	

No.	種別	議題	結果	主な意見
議題 6	(報告事項)	学長の方針説明		学外委員からのコメントは以下のとおり。 ○学長がビジョン・ミッションを明確に示されている点は非常に評価でき、今後の取組に期待している。特に、民間企業との連携を一層進め、社会や市場に支持される研究成果の創出を通じた外部資金の獲得を図ることが重要である。また、学内においても職員の意欲やエンゲージメント向上を図り、組織全体の活性化につなげていくことを期待したい。(学外委員) ○組織改編についてはその立ち上げが重要であると考えている。今後の進捗や取組状況について、引き続き経営協議会の場で報告されることを期待している。(学外委員) ○学長の考え方は分かりやすく示されており、大学としての方向性が明確になったと感じている。今後は、各部署における具体的な取組を期待している。(学外委員) ○大学の価値は成果にあり、とりわけ卒業生の活躍は重要である。地域の歴史や産業基盤と結び付いた人材の輩出状況を分かりやすく示すことで、本学の強みや将来性がより明確になるのではないかと。また、こうした地域の文化や背景を前面に打ち出すことで、さらなる発展につながることを期待したい。(学外委員) ○学長のリーダーシップのもとで大学改革に向けた明確なビジョンが示されている点は評価できる。今後は、教職員の力を引き出す体制づくりや機動的な組織運営が重要であり、状況に応じて方針や体制を柔軟に見直していくことが求められる。また、戦略的な予算配分や人事の在り方を含め、学長のもとで活用できる財源を確保し、将来に向けた投資を行うことが重要である。(学外委員) ○学長が明確なビジョンと方向性を示されている点は評価でき、内容も分かりやすいと感じている。一方で、その実現に向けた具体的な取組や戦術については、より明確になるとよい。特に、投資対効果や成果指標（KPI）の見える化を通じて、方向性に沿った取組が適切に進んでいることを示していくことが重要であり、今後の展開に期待している。(学外委員) ○学長の方針には強い熱意が感じられ、とりわけ「稼ぐ」という表現についても、その意図や背景を踏まえると理解が深まった。大学の持続的な発展に向けた方向性として意義あるものと感じており、今後の展開に期待している。また一方で、資料の表記について、西暦と和暦が混在している点は分かりにくさにつながるため、整理・統一されることが望ましい。(学外委員) ○本学の本部制は他大学と比較しても特色ある取組であり、教職協働や職員のエンゲージメント向上に寄与している点は評価できる。今後の組織改編によるさらなる発展に期待している。また、「見える化」は重要な観点であり、特に教育については、人材育成の成果が中長期的に現れる特性を踏まえつつ、どのように価値や成果を可視化し、大学の価値創造や再投資につなげていくかが重要であるとする。(学外委員)